

# 象徴の務め

## 外国訪問

天皇、皇后陛下の外国訪問の目的は国際親善が基本だが、訪問国や人々との関係にも影響を及ぼす。それだけに周囲の思惑が交錯することも。日本の象徴が海を越えて残した軌跡をたどった。



2000年5月、オランダ・アムステルダムダム広場で、ベアトリックス女王(右手前)らとともに戦没者記念碑への献花に向かわれる天皇、皇后陛下。女王の後ろに続くのは軍服姿のハウザーさん(共同)

## オランダ 「思い」を示し未来へ

灰色の雲が垂れ込めるアムステルダム王宮前のダム広場。二〇〇〇年五月、天皇、皇后陛下は中央の戦没者記念碑に花輪を献じ、長い黙とうをささげられた。その姿を、周囲に集まった市民らが静かに見守る。太

平洋戦争で旧日本軍はオランダ領インドネシアを占領。抑留被害を巡る反日感情が残る中、両陛下が態度で示した「思い」をオランダ側が受け取り、過去を乗り越えて未来へとつなぐ旅となった。献花式では、進み出

る両陛下にベアトリックス女王(右手前)らとともに戦没者記念碑への献花に向かわれる天皇、皇后陛下。女王の後ろに続くのは軍服姿のハウザーさん(共同)

池田維さん(右)に話し掛けた。「どれほど長く感じられたことか。終わってほっとした」。昭和天皇が一九七一年に非公式訪問した際、沿道から魔法瓶が投げられ天皇の車の窓にひびが入る事件が発生。今回も混乱への懸念があった。女王の付き添いとハウザーさんの参列を提案したのは女王自身だ。幼い頃に日本の収容所生活を経験。退役後は戦後の和解事業に携わり、国民の信頼が厚かった。二人の存在が抗議活動へのけん制となつた。若い時から陛下と親交があり、両国関係を長く見てきた女王ならではの心遣いだつた。

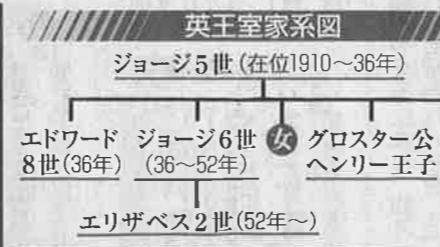
## 中国 「訪問良かったのか」

北京の人民大会堂での晩さん会で、「不幸な一時期は」私の深く悲しみとするところ」と述べた天皇陛下のあいさつが終わると、静まっていた会場に拍手が響いた。一九九二年十月の天皇、皇后陛下下の中国訪問は、友好の頂点となる一ページを記した。だが、八九年の天安門事件の余波が続く中で訪中に「天皇の政治利用だ」との批判があり、その後、日中関係も悪化

「訪問は良かったのか」。陛下の言葉に複雑な思いがにじむこともあった。「温かいあいさつに感謝します」。晩さん会を主催した楊尚昆国家主席は、席に戻った陛下に丁寧な謝辞を述べた。最後の訪問地の上海では、車列の進む繁華街の沿道が数万人の市民らであふれた。「歓迎歓迎」「日本の天皇だ」。両陛下は車窓を通して両側の人々と視線を合わせ、手を振り続けた。

「一般の市民と接する限られた機会。両陛下の希望で、通常は時速三十キロで走るところを十キロ以下まで減速した」と同乗した当時の上海総領事連見義博さん(左)。「軍服姿の昭和天皇から、中国人の抱く天皇のイメージが変わったと思う」。当時の上海市副市長で、後に閣僚級の國務院新聞弁公室主任を務めた趙啓正さん(右)も

「中日関係はあの時、最高潮に達したと言え」と訪中を評価。日本側には「新憲法下の新天皇の訪問で、過去よりも将来の日中関係を」と(当時の政府関係者)と感情的なわだかまりに区切りを付けたいとの狙いもあった。一方、訪問前に国内で反対論も噴出。天皇を外交に善き込むことへの懸念や、人権問題が指摘される国への訪問に対する国際的な批判が憂慮された。首相官邸での会議で反対論を述べた国学院大名誉教授の大原康男さん(右)は「陛下の政治的利用になりかねず、決定的経緯も不明瞭だった」と強調する。友好ムードは訪中の翌年、転機に。国家主席に就いた江沢民氏は反日につながる愛国教育を推進、九八年に国賓として来日した際の宮中晩さん会のあいさつで、過去の日本の軍国主義を厳しく批判し



【ロンドン共同】島崎淳「英国のエリザベス二世(52年)は、二〇〇〇年の両陛下オランダ訪問時の駐オランダ大使。回国訪問が成功裏に終わろうとしていた最終日、陛下と朝食を共にした。かつての訪中での尽力をねぎらった後、陛下は尋ねた。「どこで、訪中は良かったと思いませんか」

# 英王子 終戦翌年訪日望む

## 皇室との絆 背景か

スウェーデン王室のグスタフ六世は、一九四五年、第二次世界大戦終戦翌年、日本を訪問した。その際、皇太子裕仁(現上皇)と面会し、戦中皇太子が皇太子に即位したことを祝賀した。この訪問は、日英関係の改善に大きく貢献したとされている。また、グスタフ六世は、戦中皇太子が皇太子に即位したことを祝賀した。この訪問は、日英関係の改善に大きく貢献したとされている。

## ブラジル 親善の懸け橋に感謝

「日系ブラジル人はさまざまな分野で貴国の社会に尽くしており、わが国民との重要な接点となっております。すこすこを心強く、喜ばしく思っております」。天皇陛下は一九九七年五月、皇后さまとブラジルを訪問し、大統領主催晩さん会でのあいさつで日系人をたたえられた。「陛下は日系人が国際親善の懸け橋になっているとお考えだ。受け入れた相

手国への感謝も欠かさず」と元側近は話す。日本人は明治維新後、米国・ハワイなどへの移住を始め、ブラジル集団移住は〇八(明治四十二)年四月(明治四十二)年四月に七百八十一人が「笠戸丸」で神戸港を出港したのが最初とされている。晩さん会には第一回移住者で最後の生存者、中川トミさん(当時六〇)、故人の姿もあった。

九七年当時ブラジル議会の下院議員だった日系二世のアントニオ・ウエノさん(同左)と、同様に、初期の移住者は粗末な住居に天皇、皇后の写真を掲げ、日本人である誇りを忘れず厳しい環境の中でも懸命に働いたという。

陛下は皇太子時代にも二回、皇后さまとブラジルを訪れている。六七年の初訪問前には、笠戸丸で移住した人々を住まわすの東宮御所に招いて苦難の歴史を学んだ。二回目は移住七十年に当たる七八年。サンパウロ市内の競技場で催された式典には日系人ら約九万人が集まり、二人を迎え

た。元侍従次長佐藤正宏さん(右)は陛下の思いにこたえて「同胞として心を寄せ、活躍をうれしく思っています。サンパウロ大教授の二宮正人さん(左)は五



1978年6月、ブラジル日本移住70年の式典で、オープンカーに乗り観衆に手を振って応えられる天皇陛下(当時皇太子、車上の右)とサンパウロ(UPI)共同

「ロンドン共同」軍人であった英国のグロスター公エドワード王子は、英国最高位に授与するため一九二九年訪日し、皇族や軍人らと交流のゆかりが、戦後の訪日望につながったとみられる。一行が東京駅に着いた際は昭和天皇自身が迎え、手を挙げての大歓迎。外交文電として残された英使節団報告書は「最も特筆すべきは温かく、心のかもった歓迎ぶり」を記し、王子の記憶に深く刻まれたことは想像に難くない。当時付き添ったのは、英留学経験があり、王子と親

「ロンドン共同」軍人であった英国のグロスター公エドワード王子は、英国最高位に授与するため一九二九年訪日し、皇族や軍人らと交流のゆかりが、戦後の訪日望につながったとみられる。一行が東京駅に着いた際は昭和天皇自身が迎え、手を挙げての大歓迎。外交文電として残された英使節団報告書は「最も特筆すべきは温かく、心のかもった歓迎ぶり」を記し、王子の記憶に深く刻まれたことは想像に難くない。当時付き添ったのは、英留学経験があり、王子と親

「ロンドン共同」軍人であった英国のグロスター公エドワード王子は、英国最高位に授与するため一九二九年訪日し、皇族や軍人らと交流のゆかりが、戦後の訪日望につながったとみられる。一行が東京駅に着いた際は昭和天皇自身が迎え、手を挙げての大歓迎。外交文電として残された英使節団報告書は「最も特筆すべきは温かく、心のかもった歓迎ぶり」を記し、王子の記憶に深く刻まれたことは想像に難くない。当時付き添ったのは、英留学経験があり、王子と親

「ロンドン共同」軍人であった英国のグロスター公エドワード王子は、英国最高位に授与するため一九二九年訪日し、皇族や軍人らと交流のゆかりが、戦後の訪日望につながったとみられる。一行が東京駅に着いた際は昭和天皇自身が迎え、手を挙げての大歓迎。外交文電として残された英使節団報告書は「最も特筆すべきは温かく、心のかもった歓迎ぶり」を記し、王子の記憶に深く刻まれたことは想像に難くない。当時付き添ったのは、英留学経験があり、王子と親

「ロンドン共同」軍人であった英国のグロスター公エドワード王子は、英国最高位に授与するため一九二九年訪日し、皇族や軍人らと交流のゆかりが、戦後の訪日望につながったとみられる。一行が東京駅に着いた際は昭和天皇自身が迎え、手を挙げての大歓迎。外交文電として残された英使節団報告書は「最も特筆すべきは温かく、心のかもった歓迎ぶり」を記し、王子の記憶に深く刻まれたことは想像に難くない。当時付き添ったのは、英留学経験があり、王子と親



グロスター公ヘンリー